

衣川會館コワーキングスペース完成 記念イベント開催！

青垣地域の衣川會館に、机・椅子など共有して仕事ができる、コワーキングスペースが完成しました。ネット通信環境が完備され、共用スペースやシェアオフィスも設置。16人まで使用できます。

4月23日に完成記念イベント「人が集まる仕組みづくり」をテーマにパネルディスカッションが行われ、参加者は真剣に聞き入っていました。



活動内容を発表する中川ミミ地域おこし協力隊員（写真右）

うづきのうたげ 丹波布ファッションショー

4月23日に柏原藩陣屋跡で「うづきのうたげ - 丹波布ファッションショー」が開催されました。

「受け継がれていくべきものを守らなければ」と実行委員会を中心に技術保存会技術者協会の協力を得て、実施されました。丹波布の着物を身に着けた貴重な姿に、歓声があがっていました。



着物だけでなく家族で楽しむ丹波布ファッションも提案

丹波市が舞台の映画 本格的な撮影はじまる！

4月24日から、丹波市が舞台の映画の撮影が本格的に開始されています。近兼拓史監督の下町の詩シリーズという、兵庫県を舞台にした人情映画3部作のラストを飾る作品で、青垣地域でオープニングシーンの撮影が行われました。

映画の冒頭は、春の丹波を撮りたいとの監督の強い希望で夏の本格撮影を前にメインキャストを集めて撮影を敢行。空撮を交えながら市の全景がみえるように撮影が計画されました。新緑の美しい景色を撮り、魅力をアピールできるように撮影が進みました。

また、5月2日には監督が市長を訪問し、撮影状況を伝えました。監督は、映画のテーマはまちおこしで、人や自然、特産物や恐竜などを描きたいと考えていると説明。谷口市長は「市の魅力が多くの人に伝わる絶好のチャンスだと考えている。ぜひ、よい映画を撮ってもらいたい」と答えました。



新緑を背景にしたオープニングシーン



握手を交わす近兼拓史監督（写真左）と谷口市長
（C）映画「恐竜の詩」製作委員会

丹波市地域医療総合支援センター 建設工事に着手

5月10日、平成31年度開院をめざして整備を進めている新病院「県立丹波医療センター」と同一敷地内で整備を進める「丹波市地域医療総合支援センター」の安全祈願祭と起工式が行われました。

谷口市長は「新病院と連携し、市民の皆さんが安心して暮らしていける施設にしていきます」と誓いをあらたにしました。※施設名はすべて仮称



関係者から模型を使って説明を受ける、兵庫県知事（写真右）と谷口市長（同中央）、秋田柏原病院・柏原赤十字病院院長（同左）

丹波市を元気に！ 地域おこし協力隊員2人が着任

地域活性化を担う「地域おこし協力隊」2人が着任しました。1人目の熊谷篤さんは、観光資源・特産品を活用した体験型などの催しの企画・実施、2人目の服部友香さんは商品（食・製品）の開発・発掘・研磨、情報発信・販路拡大に従事します。

2人は「これまでの経験を十分に生かせる仕事でやりがいがある。自分が感じた魅力を届けていきたい」と誓いました。



決意をあらたにした服部友香（写真中央）さんと熊谷篤さん（同右）

レイチェル＝ルイスさんに 国際交流親善大使を委嘱

5月2日、ケント市との長期交換留学生レイチェル＝ルイスさんに国際交流親善大使を委嘱しました。市を紹介できる名刺や委嘱状、記念品を贈りました。

レイチェルさんは「丹波のことが大好き。帰国後は、家族や友だち、多くの人に丹波のことをしっかりと伝えたい」と誓いました。



委嘱状を受け取るレイチェルさん（写真右から2番目）

丹波市消防団初出式 地域の防災力が結集！

平成29年度丹波市消防団初出式が4月16日に行われ、340人の消防団員が氷上住民センターに結集しました。

荻野克己団長は「団員が同じ志をもって消防活動にまい進し、地域防災においてさらなる貢献をしていきたい」と訓示し、地域防災の要として消防団員が一致団結して地域の安全を守る覚悟を胸に刻みました。



丹波市消防団初出式の様子。